

梅雨の最中とは思えないほど澄み渡った青空の下に、浅間山がゆったりとした姿を見せています。山肌には初夏らしい柔らかな光が差し、残雪もほとんど消えて、火山らしい黒褐色の斜面がよく分かります。梅雨の時期は雲に隠れてしまうことも多い浅間山ですが、この日は空気中の水蒸気も比較的少なく、遠くまで見通せる絶好の条件となりました。山頂から右へ延びる稜線のなだらかな起伏もはっきりと確認でき、北軽井沢から眺める浅間山らしい端正な山容が印象的です。

この写真は現地で撮影したものではなく、東京から遠隔操作によって撮影したものです。近年はインターネットを利用した遠隔観測が身近になり、離れた場所の自然の様子をリアルタイムで確認できるようになりました。特に浅間山のような活火山では、天候や山体の変化を継続して記録することに大きな意義があります。現地へ足を運ばなくても、その日の空気感や光の状態まで感じ取れるのは、遠隔撮影ならではの魅力といえるでしょう。

手前には深い緑に覆われた木々が広がり、その向こうに堂々と浅間山がそびえる構図は、初夏の高原らしい爽やかさに満ちています。雨の日が続く梅雨の季節だからこそ、このような晴れ間はひととき貴重です。長く続いた曇天のあとに姿を現した浅間山は、まるで高原の夏の訪れを告げているかのようでした。遠く離れた東京から眺めていても、その雄大な存在感は変わることなく、浅間山が北軽井沢の風景の中心であり続けていることを改めて感じさせてくれる一枚です。

(2026年6月下旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

